

11. 全ては調和に向かう

医事万華鏡

10月12日に日本に上陸した台風19号は、関東地方や甲信地方、東北地方などで記録的豪雨となり、河川の氾濫や決壊が相次ぎ、多数の死傷者が出るほど甚大な被害をもたらしました。亡くなられた方々の御冥福をお祈りすると共に、ご遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。また、被災された地域の方々には心よりお見舞いを申し上げます。改めて自然災害は日本列島に住む者の宿命であることを痛感させられる今日この頃です。

ただ、われわれは被災して漸く、対策の不備について振り返りがちです。事前策を怠った結果だと非難を伴う議論が巻き起こります。実際、今回の台風で氾濫し、多くの被災者が出た多摩川流域では、大正時代に川沿いに堤防を整備する計画があったものの、景観を重視したばかりに堤防建設が反対され、川から100メートルほど離れた道路沿いにだけ堤防が整備されたと聞きます。堤防があったら、と後悔しても後の祭り。事後に初めて人は賢明になるというのではありません。その一方、今回の東京23区の浸水被害は、ハザードマップの想定とほぼ一致していたとい

うのは、その精度の高さを裏付けるものです。ハザードマップの正確さが証明された以上、その利活用はますます推進されていくべきでしょう。いつなん時に訪れるか分からない自然災害に備え、少なくとも洪水や台風に関しては、堤防やダム、そしてハザードマップ等、科学で対処することに注力して行く必要があります。

もともと、自然災害は防ぐに越したことはありませんが、起きてしまった以上、われわれはそこに何らかのメッセージを見るべきなのではないでしょうか。つまり、自然災害は人間側への意識改革の通告なのだ。そもそも人は有史以来、自然界に適応すべく様々な技術を開発してきました。いわば、自然の支配です。しかも挙げ句の果てには、自然を保護するなどと言うに至っています。しかしそれがために、自然が本来備える「調和」を乱してしまった。とはいえ、人は自然に勝てるはずがありませんから、時に自然は猛威を振るう。それを自然の本来あるべき調和へ向かう中で生じる。揺り戻し。だと認識し、自然の調和を損なうことのないよう、人間側も自問自答し、努力する姿勢が求められているのではないのでしょうか。

奇しくも10月22日に宮中で「即位礼正殿の儀」が行われました。外界は内界と呼応するという理屈に従うならば、日本の新たな「秩序」と「調和」の到来は、日本人一人ひとりの内面の調和の現れです。日本全体の調和が、自然界の調和の維持へと寄与することを期待します。(JMS主幹・野村元久)

